

# あいらの歴史と物語

発行責任者：始良歴史ボランティア協会  
会長 竹之下 洲一  
編集者：広報部 松下 澄行

連絡先：〒899-5421 鹿児島県始良市東餅田 498 始良市歴史民俗資料館 電話 0995(65)1553

## 隼人・垂水研修



### 隼人塚

濱口 純則

隼人塚は、高さ2mほどの丘の上に五重石塔3基が立ち、それを守るように周りに武人石像4体が鎮座する国指定史跡です。当初は、ヤマト政権に平定された隼人族の靈魂を供養し、災厄を免れる為に建てられたと伝えられてきましたが、発掘調査の結果平安時代の仏教遺跡と考えられるようになりました。また、隼人塚は正国寺という寺の跡で、正国寺には、もと国分尼寺が建立されていたともいわれています。

隼人塚という名称を始めに用いたのは、鹿児島神宮の神主であった桑幡公幸氏きみゆきで、彼の著作である『国分の古蹟』「明治36年（1903）」に記されているのが初出です。それまでは軍神塚くまそ、將軍塚、熊襲塚などと呼ばれていました。

平成4年（1992）整備事業に着手、平成6年から始まった発掘調査の後に、石塔の復元、石像の再配置が行われ、平成12年（2000）に整備が完了しました。

# 隼 人 巡 見

## 富隈城

恒見 勝則

富隈城は、文禄4年(1595)に島津義久が築き、慶



長9年(1604)国分の舞鶴城に移るまであしかけ10年間居城。城は稻荷山という小高い丘を四角に石垣をめぐらし、東西150m、南北250m、石垣は肥後八代の石工たちが築きました。また東南の角に「清正石」も残っています。

義久在城の間、朝鮮出兵・関ヶ原合戦等島津氏苦難の時代でした。義弘が関ヶ原で敵中突破し、帰途兄と対面したのも富隈城でした。

また、坊津に流されていた近衛信輔(関白、書の達人三藐院流の祖)も、許されて帰洛の途中この城に立ち寄っています。

なお、城内には稻荷神社、「隅州富隈新松林記」の碑、NHK鹿児島放送中継所もあります。

## 樺山どんの墓

吉田 茂子

野久美田、小浜にまたがる中世の山城長浜城は、以前生別府城ともよばれていました。大永5年(1525)島津氏一族樺山家七代信久によって生別府



城が築かれました。

後を継いだ二代目城主善

久は、国分の豪族に攻められ城を明け渡しましたが、再び取り返しこの時「長浜城」と改称しまし

た。

善久(千代鍋)は元服の時、日新斎が立会い自分の次女(お隅)と縁組をさせ、貴久の弟として頼りとしました。貴久・義久二代に仕え薩摩・大隅統一に貢献した武将であり、歌人でもあったといひます。仮屋(館)は、現在の小野小学校付近にあったといわれていますが、当時を偲ぶものはありません。ただ墓だけが裏山にひっそりと現存し、五輪塔・宝珠印塔などの墓碑が建っているといひます。現在は子孫の久孝氏によって管理されていますが、自由に立ち入ることはできません。

## 鹿児島神宮

恒吉 一洋



創建は、『延喜式』(平安初期に書かれた書物)に、「大隅国桑原郡

一座大鹿児島神社」とあり、かなり古いと考えられます。

祭神は主神が彦火火出見尊(山幸彦)と豊玉姫で、他に仲哀天皇・神功皇后・応神天皇などが祭られています。

この神宮は、旧官幣大社で、大隅国の一宮(最も社格の高い神社)でした。朝廷・大隅国府や大隅国の人々は、この神宮を大切に、多くの土地を寄進しました。

呼称も、鹿児島神社・八幡神社(大隅正八幡宮)・鹿児島神社・鹿児島神宮と変遷しています。廃仏毀釈までは神仏習合の神社でした。

造りは、本殿・拝殿・勅使殿が一直線に並び、柱筋が本殿から勅使殿まで連なっており、勅使殿両脇の東長庁・西長庁が外観を荘厳にしています。社殿は、県指定の文化財となっています。

# 垂水・福山巡見

## 牛根麓字脇田の磨崖仏

坂元 清美

牛根麓字脇田の山下造船所向かい側の脇の小道を100m程山手に行き、ビワ畑を横切るとシラスの崖が見え、凝灰岩の岩壁に石仏が



刻んであります。

太平洋戦争時、海軍基地を構築するための土

砂を採取する時、偶然に発見されました。

この仏像は尼僧で、諸国回向の僧が亡き妻のため、岩壁に仏像を彫刻して菩提をぼだい とむら吊ったものと考えられています。この磨崖仏は幅15m、高さ20mの崖の下部に刻まれ、崖の表面から奥まったところが屋根のようになり、直接風雨にさらされないようになっています。尼僧の左右には灯籠が刻まれています。右の灯籠には「正保四年 妙香禅尼十二月二六日」と彫られています。(正保四年は西暦1647年)

## 福山浦町の盛衰

竹之下 洲一

江戸時代の初め、都城島津家は、庄内の



穀倉地を藩に献上します。すると藩は、福山「南園」の地を都

城島津家の領地として安堵します。福山の港は庄内からの米や、都城の諸産物・生活物資の集積地となり、大繁栄することになりました。

港には藩の御用船や廻船問屋の船がひしめき合い、人足や商人たちで満ちあふれました。麓の下の海岸線には浦町が栄え、諸商店も軒を並べるようになり、商人の中には財を蓄え、白壁蔵や石倉を持つ豪商も生まれてきました。その代表に厚地次兵衛がいます。

明治・大正を経て昭和の初め頃まで繁栄しましたが、日豊本線が開通し、さらに陸上交通網が整備されると、福山浦町は、海岸沿いの一通過点になり、衰退していったのです。

## 垂水島津家墓地

橋木 國丸

垂水家は、島津忠将に始まる島津家の分家で、御一門四家の一つであり、初代忠将から16代たかみち貴暢まで約250年間続きました。



垂水家の墓地は、

垂水市田神上ノ平添の曹洞宗天真派心翁寺跡にあります。この墓所の特色は、垂水市管轄で、初代から16代まで歴代領主の墓が一カ所にあり、豪壮な墓碑が一堂に並び、県内でもよく整備されているところにあります。領主と正室の墓の並立は県内でも珍しいそうです。墓碑は精巧で宝篋印塔が多く、巨大な六地藏塔（供養塔）も数多く建立されています。

なお、初代忠将夫婦の墓と、朝鮮出兵中逝去した3代てるひさ彰久の墓は国分清水城に、2代ゆきひさ以久の墓は佐土原の高月院に、4代久信の墓は鹿屋安養寺に、16代貴暢の墓は東京にありましたが、昭和45年(1970)垂水墓地正面入り口に合祀ごうしされました。

## 加治木郷土館所蔵品紹介

### タンコ (桶)

佐土原 保子

今から 50 年前までは、各地域の中にはタンコどん又はタンコ屋と呼ばれる桶造りの職人がいました。タンコどんは、味噌樽・醤油樽から水汲み桶などの修理や新たに桶を作る人です。

材料は、杉板又は桧板と竹を薄く削いだ物を使います。タンコ屋の前を通ると中からカッカッ・トントンと造る音がしていました。

その当時、嫁入り話が決まると、親はさっそくタンコ屋に出向き、洗濯タライ・ビンダレ (洗顔桶) などを注文し、できあがると嫁入り道具のひとつとして持たせました。

今ではプラスチックなどの製品が使用され、一般の家庭では見られなくなりました。



コどん又はタンコ屋と呼ばれる桶造りの職人がいました。タンコどんは、味噌樽・醤油樽から水汲み桶などの修理や新たに桶を作る人です。

材料は、杉板又は桧板と竹を薄く削いだ物を使います。タンコ屋の前を通ると中からカッカッ・トントンと造る音がしていました。

その当時、嫁入り話が決まると、親はさっそくタンコ屋に出向き、洗濯タライ・ビンダレ (洗顔桶) などを注文し、できあがると嫁入り道具のひとつとして持たせました。

今ではプラスチックなどの製品が使用され、一般の家庭では見られなくなりました。

### 職員紹介

始良市教育委員会 文化財係

岩元 康成



本年度から採用となり、文化財係で勤務することになりました。これまでは薩摩川内市や霧島市で暮らしていましたので、始良市の歴史・地理についてまだまだ知識不足です。

歴史ボランティア協会のみなさんの情熱に負けぬように勉強し、市民の方々の役に立てようがんばりたいと思います。

始良市には多くの文化財があり、多くの方に関心・興味を持っていただいています。またそれ以外にもまだ知られていない文化財があります。すでに知られているもの、知られていないものも含め、始良市の歴史の魅力を発信していきたいと思いますので、よろしくお祈りします。

## 始郷《あいきょう》

縄文のジャンクションから「今を生きる」

宮内 伸一

加治木のランドマーク「蔵王岳」の麓に「三代寺遺跡」や「干迫遺跡」がある。どちらも縄文時代の昔から何千年も続いた、私たち日本人の足跡を今に伝えている。

ところで、私たちが「今を生きている」のは、祖先の苦勞や歩みの上に成り立っている。今回、ガイドをするために地域の遺跡や史跡を調べ、その地を訪れ、実際にその場に立ち初めてその思いを強くすることであった。

自分たちの生活している地域の足元に、はるか数千年前の人々の生きた証が眠っている。私たちの祖先が歩いてきた足跡が残されているのである。このことに「今を生きる」みんなが気づき、今までの祖先の思いを共有できるならば、もっと良い「平和で豊かな世の中」を築いていけるのではなかろうか。

より良い始良市を目指して、歴史ボランティアとして自分のできることを果たすことで、少しでも祖先の思いを「今を生きる」皆さんに伝えていけたらと考えている。



### 平成 26 年度ボランティア活動報告 1

- ① 6月12日 近隣市町史跡研修  
「隼人方面」研修部(協会員全員参加)
- ② 6月14日 ムーミン講座「始良・蒲生探検隊～始良北部・蒲生編」〔広報部〕
- ③ 7月1日 鹿児島県旅行協同組合  
吉田巡り (吉田町) 〔研修部〕
- ④ 7月17日 公民館講座  
史跡巡り (加治木下場) 〔研修部〕
- ⑤ 8月20日 始良地区小学校社会科教育研修  
山田の凱旋門・蒲生記念碑・加治木郷土館  
加治木島津館跡 〔企画部〕
- ⑥ 8月21日 公民館講座  
史跡巡り (加治木上場) 〔企画部〕

**編集後記** 歴史ボランティア協会では、今回始良を離れ、隼人町・垂水市の史跡を研修し、始良市との関連を探索いたしました。

次回の広報誌では、秋のイベントの内容と、今まで知られていない蒲生町の史跡の紹介を企画しています。